

陳 情 文 書 表

令 3 陳 情 第 9 号	令 和 3 年 8 月 2 0 日 受 理
件 名	児童・生徒が、他者との協調性や多様性を理解することの大切さを学ぶために市内の学校間交流の環境づくりを求める陳情
陳 情 者	秦野市曾屋 7 7 3 - 1 学生団体 E 4 代表 齋藤 初依
陳 情 の 要 旨	
<p> 私たちは、小・中学校に通っていた際に「こんなことがあったら」「あんなことができたら」という考えを抱いていました。現在の児童・生徒も、私たちと同じように、様々な希望を抱いて学校生活を送っていると思います。児童や生徒の声を直接聞く機会はあると思いますが、その多くはアンケート形式による学校評価や教育相談など個人的な相談事か、若しくは生徒会本部や、部活動の部長の会議など、一部の生徒を対象としたものだと思います。また大きなコミュニティへ進んでいく際に環境の違いや、多様な価値観に触れることに対し、現状では、対応できない児童・生徒もいます。実際に私たちも、中学校、高校に進学した際に、母校が違うクラスメイトとのギャップに戸惑いを感じました。これらのことから、私たちは市内の学校間交流及び、共同行事が必要であると考えます。学校間交流を行うことによって、児童・生徒の経験を深め、コミュニケーション能力や豊かな人間性を育むことができます。さらに、他者と尊重し合う大切さを学ぶ貴重な機会にもなりうると思います。 </p> <p> そこで、次の二つのことを提案したいと思います。一つ目は児童・生徒がより良い学校生活を送るために学校間交流を目的とした話合いの場を設けることです。そこで他校との相違点を発見することで、児童・生徒たちが今まで知らなかった自分の学校の良いところに気付くことができます。また、他校の良い点を知ることで、自分の学校の改善点を見つけ、話し合うことによって解決へと進むことができます。児童・生徒たちが出した解決案をそこで留めるのではなく、大人へと届ける仕組みが必要だと考えます。 </p> <p> 二つ目に、他校と同じ目標に向かって取り組む環境づくりを推進することです。一部の児童・生徒だけの話合いでは、全てを解決することは難しいで </p>	

す。ただ、生徒全員で話し合う環境をつくることは困難であると思います。そこで、他校との共通の活動を行うことが必要であると考えます。現在、秦野市内の学校間交流活動として、小学4年生が対象の音楽会や、部活動の大会、合同練習がありますが、他校の練習の成果を見たり、競ったりするだけでは、他校の児童とのコミュニケーションを十分に行うことはできないと思います。そこで、他校と共通の目標に向かい活動する環境を整え、全力でその活動に取り組むことによって、お互いを尊重し合う大切さを学び、様々な人々と助け合い、支え合っていく力を育むことができます。さらに、児童・生徒の積極的な社会参画や秦野市内の活性化につながるなど大きな意義があると考えます。

陳情事項

- 1 児童・生徒たちが、学校生活を充実させるための学校間交流を目的とした話合いの場を設立してほしい。また、そこで出た結果を大人へ届けるシステムを作してほしい。
- 2 児童・生徒が学生のうちに他者と尊重し合うことや多様性を学ぶことができるよう市内の小・中学校で共通の目標に向かって活動する環境を整えてほしい。